

科目名	英語研究演習Ⅳ				
英語科目		ナンバリング	(https://syllabus.kyoto-su.ac.jp/syllabus_search/#n) を参照		
開講期	秋学期	開講学部等	外国語学部	配当年次	4 年次
教員名	鈴木 雅恵			単位数	2 単位

授業概要／Course outline

テーマ：Cross-Cultural Theatre and Translation in the Globalizing World
(異文化交流としての演劇と通訳・翻訳 展開編)

This seminar will be basically conducted in English for the people who are interested in theatre, translation, and guide and interpreting. Theatre, or performing arts in general, are intercultural or cross-cultural in their nature. We will read, watch, and translate plays and also communicate with western theatre practitioners outside the class. Seminar members are also encouraged to take the governmental guide and interpreter test.

本演習では、異文化交流の原点は演劇にあるという観点から、英語で書かれた西洋演劇とその翻案作品を中心に扱い、演劇・舞台芸術を通しての国際交流について考えます。最低2回は課外活動として舞台観賞を行い、時には演劇上演のスタッフの経験や海外からのゲストとも交流し、通訳・通訳案内の技術も磨いてもらいます。英語で個人発表もしてもらう計画ですが、舞台や演劇作品についての研究発表が難しい場合は、自分の異文化交流体験を分析して発表してもらいます。また、本年度の通訳案内士試験を受験することも奨励します。最終的にはゼミ論をまとめられるようにしていただきます。

授業形態、授業方法等／Course form・type

【授業形態】

対面授業

【授業方法】

演習

・アクティブ・ラーニング授業（形態：プレゼンテーション／実習、フィールドワーク／speech and drama）

プレゼンテーションやゼミ論の作成の他、speech and dramaや、舞台観賞、通訳案内などの実習を含む

・実務経験のある教員による授業

通訳・通訳案内士としての資格と経験、映画配給会社勤務時代に経験した翻訳、能やシェイクスピアの原語上演での舞台経験等のある教員によって行われます

授業内容・授業計画／Course description・plan

1. Introduction
2. Discussion on theatre and guiding and interpreting
3. How to write a good paper (1)
4. How to write a good paper (2) + 対話シートの記入
5. Discussion on Intercultural theatre in English (1)
6. Discussion on Intercultural theatre in English (2)
7. Theatre and translation (1)
8. Theatre and translation (2)
9. Discussion on theatre as the mirror of the society
10. Film and Theatre (1)
11. Film and Theatre (2)
12. Review and Presentation (1)
13. Review and Presentation (2)
14. Review + 授業成果の実感調査

★このほか、授業時間外のField tripがある。

事前・事後学修／Preparation and assignments

1. Introduction

事前学習：演習に必要な英語の読解力・聴解力に関して自分でスキルの向上ができる方法を考えた上で、英語による自己紹介を考えておく。

事後学習：授業のフィードバックをムードルなどで提出する。

2. 事前学習：演劇または通訳案内に関して、自分の関心のあることを英語で議論できるようにしておく。

事後学習：授業のフィードバックをムードルなどで提出する。

3. 事前学習：自分の選んだ演劇作品あるいはそのほかの資料から、好きなセリフやフレーズを抽出しておく。
事後学習：授業の流れをまとめ、フィードバックをムードルなどで提出する。
4. 事前学習：ゼミ論の組み立てを考えておく
事後学習：発表の流れをまとめ、フィードバックをムードルなどで提出する。
5. 事前学習：自分の選んだテーマの面白さを英語で議論できるように準備しておく
事後学習：授業のフィードバックをムードルなどで提出する。
6. 事前学習：演劇と地域の伝統について、自分の意見をまとめる。
事後学習：授業のフィードバックをムードルなどで提出する。
7. 事前学習：舞台芸術と通訳・翻訳の役割について、自分の意見をまとめる。
事後学習：授業のフィードバックをムードルなどで提出する。
8. 事前学習：舞台芸術と通訳・翻訳について自分のできる役割を考えておく
事後学習：授業のフィードバックをムードルなどで提出する。
9. 事前学習：演劇と社会について資料を熟読・要約し、自分の意見をまとめる。
事後学習：授業のフィードバックをムードルなどで提出する。
10. 事前学習：配布資料を読み、指定された映像も分析しておく。
事後学習：映像と字幕の関係を考える。
11. 事前学習：映画と演劇についての文献を熟読し、また、指定された映像も分析しておく。
事後学習：映像と字幕の関係を考える。
12. 事前学習：授業中に紹介された図書や配布資料を熟読・要約し、自分の意見を英語でまとめる。
事後学習：授業のフィードバックをムードルなどで提出する。
13. 事前学習：ゼミ論として選択したテーマについての流れをパワーポイントなどを使って発表する準備をする。
事後学習：授業のフィードバックをムードルなどで提出する。
14.
事前学習：今までの授業内容を整理しておく。
事後学習：ゼミ論を完成させる。

毎週の予習・復習をそれぞれ平均1.5時間することが基準であるが、ゼミ発表や課題作成には、それ以上の時間を費やす必要があると考えられる
★授業時間外のField trip荷も、同程度の予習・復習が必要である。

授業の到達目標／Expected outcome

Developing communication skills through theatre and writing a seminar paper in English
英語で演劇・映画・文学・文化を論じながら異文化交流について考えることのより、創造力や発信型のコミュニケーション能力を磨くとともに、社会人・国際人として常識を身につけ、翻訳や通訳案内のセンスも磨くこと。また、舞台鑑賞の習慣を身につけること。論理的な文章でゼミ論としてもまとめること。

身につく資質・能力／Competencies to be attained

- | | |
|-----------|--------------------|
| ・ 思考力 | 専門知識・専門技能 |
| ・ 主体性 | 【外国語学部 英語学科】 |
| ・ 発信力 | ・ 言語に関わる調査・研究・発信能力 |
| ・ 協働性・協調性 | |
| ・ 倫理性 | |
| ・ 創造性 | |

履修上の注意／Special notes, cautions

課外活動として、舞台鑑賞や、演劇関係者との交流、英語の観光案内の実習などをおこなうことを前提としているので、そのための時間や労力を惜しまないこと。
This seminar will include field research and visits to theatres.

評価方法／Evaluation

Presentation授業中のプレゼンテーション（30％）＊、contribution to class授業や課外活動への貢献度（30％）

seminar paperゼミ論（40％）＊＊

＊プレゼンテーションについては、授業内の相互評価に、教員の評価が加味された上で、総合的に判断されます。

＊＊ゼミ論の評価は提出後、ムードルにコメントと共に評価が記載されます、その過程で、メールなどで改定を求めることがあります。

教材／Text and materials

教材については授業中に指示する。

参考図書：ed. Jonah Salz, 『A History of Japanese Theatre』 (Cambridge University Press, 2016)

科目必読図書：ちくま文庫「シェイクスピア全集1-17」（松岡和子訳）

質問や相談の方法／Instructor contact

担当者の連絡先：

Office Hour: Thursday 12:00-12:50 at 第二研究室棟515 (Office Room 515, Research Building 2 (near the library))

The instructor's e-mail address will be introduced on the Moodle at the beginning of the semester
Please contact me by e-mail for further questions.

その他／Others

We expect you to keep in contact with the instructor to report about your progress in research.